
夢笛

文愚堂 直純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢笛

【コード】

N1955D

【作者名】

文愚堂 直純

【あらすじ】

私のみた、まことの夢の物語。人の夢には、深層心理が垣間見えるそうです。

私はいつかこんな夢をみたことがあった。

気が付けば私は広野の中に一人佇んでいるのである。緑の海原は無限に続き、その先で巨大な地平線を描き出している。風もなくただ静かに、朝陽をうけて葉先の露がきらきらと光りかがやいていた。私はその宇宙のように美しい緑の草原を何度も見回しながら、その美しい世界の中に吸い込まれそうな感情になった。しかし、次の瞬間何かが私の鼓膜を突き破っていった。雷鳴である。一瞬にして目の前からは先ほどまでの美しい宇宙が遠い闇へと消え去っていった。朝陽もまた巨大な闇の中へと姿を隠した。

そのときからである。私の眼から光りは失われてしまった。その日の朝も夢に見たような激しい雷鳴によって目覚めたのである。降り頻り雨音がより一層にその雷鳴を地獄いる悪魔の高笑いであるかのように感じさせた。不気味な遠吠えであった。

私は絶望と恐怖の際限にいた。そして、この現実が今もなお夢の続きであるということを必死に自分自身に言い聞かせることで生への望みをつなぎとめている。布団を頭までかぶり喧騒の止むまで諤々と震えていた。厚く湿った布団の中で、僅かな希望にかりたてられてゆっくりと目を開けた。そこには、あの夢で見たのと同じ闇の世界が広がっていた。

ばさつ。母の大きな怒鳴り声とともに、目の前には眩いばかりの光りの世界が広がったのである。布団をめくり上げ、仁王立ちする母の姿は私には何にもまして貴い光りであるとその時確かに悟った。

だが、そう思ったのも束の間であった。その母のような貴い光りの正体は私を極楽浄土へと導く観音菩薩であったのだ。菩薩に手を引かれ布団から這い出た私の目の前には、五色の光りを放つ蓮の華が咲き乱れ、飛天がさまざまな心地よい楽を奏していた。

私は、死んだのである。雲間からのぞき見た我が家の窓には、私

のベッドの前で泣き崩れる母の姿がうつし出されていた。
という様な夢である。

-

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1955d/>

夢笛

2010年11月18日14時35分発行